

南アフリカの柑橘類の未来

EUROFRUIT 2024年4月16日

CGAのミッチェル・ブルック氏は、南アフリカの柑橘類出荷量が大幅に増加するとの見通しは非常に現実的だと言う

南アフリカの柑橘類産業における「ビジョン260*」に向けた増産は非常に現実的であり、2024年の輸出予測によって裏付けられている。したがって、業界は、近い将来、より多くの柑橘類を輸出する必要があるという事実に対して尻込みするべきではない。(※: 2032年までに柑橘類輸出量を2億6千万箱に増やすという業界の目標)

これは、柑橘類生産者協会(CGA)の上級役員であり、業界の物流計画を主導しているミッチェル・ブルック氏の見解である。(以下「」は同氏の発言)

「果樹センサスのデータと収穫量長期予測モデルは、我々が自分の目で確かめたことと同じく、過去数年間の新植面積を強調している。」

同氏はまた、短期的に見て1億8,500万箱(15kg/箱)を輸出するのに十分な成園面積があると述べつつ、特定の年の輸出量についてはプラスとマイナスの両方の要因があると指摘した。2024年の総出荷量の予測は、1億8千万箱をやや上回る水準に引き上げられており、これは前年比で10%の増加となる。「この予測出荷量は、シーズンが進むにつれて、収穫状況と市場の動向の影響を受けることになる。」

地域的に見ると、南アフリカの北部地域の予測出荷量は9,100万箱で、ベースラインの8,200万箱よりも多い。東ケープ州の予測出荷量は4,750万箱から5,250万箱に増加した。北ケープ州と西ケープ州の予測出荷量は3,600万箱から6%増加して3,800万箱となった。

「物流と輸送に関しては、統合、協働、情報及びコミュニケーションに関するCGAのイニシアチブが極めて重要であることを指摘したい。」

業界が直面しているインフラ、処理能力、設備の需要を踏まえ、合わせて港湾のコンテナターミナルの生産性や運用上の問題も考えると、業界関係者と物流事業者は、そのイニシアチブを強力に支持する必要がある。

これは、業界の内部関係(ビジネスエコシステム)における重要分野(ホットスポット)の特定を可能にする情報共有環境の醸成を目的としている。それにより、特定された制約要因を克服するための対応計画と問題解決のメカニズムが導入される。

業界を前進させるために物流と輸送の能力を確実に有効化させるメカニズムとして、より緊密な連携が必要だと考えられている。それが成功すれば、国としての南アフリカも含め、皆が勝ち組になる可能性がある。

「また、2つの重要な短期戦略プロジェクトについても、一層の協働が求められている。第一に、内陸部や港湾地帯から鉄道で柑橘類を輸送することが根本的に重要であるという事実から逃れることはできない。変化する鉄道の状況を踏まえて柑橘類業界を先導し、鉄道関連プロジェクトを徐々に進めるため、トランスネット社(運輸公社)の貨物鉄道部門の元幹部であるヤン・レイス・スプールストラ氏が任命された。

CGAとFPEF(青果物輸出業者協会)は、モザンビークのマプト港からの柑橘類の輸出量を増やすための作業部会の調整を行うことにも合意した。

「2023年には、マプト港から中東やバングラデシュに輸送される柑橘類のコンテナが大幅に増加した。短期的には、これを拡大し、事前承認や低温処理を必要としない極東、東南アジア諸国など、より広い範囲のアジアを輸出先とすることができる。」

ブルック氏は、マプト港からの輸出の将来的な拡大は、追加措置を必要とする市場 - 特に中国だが中国だけに限らない - への輸出を可能にするインフラと処理能力の開発にかかっていると付け加えた。

執筆者: フレッド・メインチェス